

事の発端は、ウズベキスタンの「コリョサラム」キム・ブルット氏が、「在日」との語らいの場を持ちたいと願ったこと。それぞれに、遠い昔に、朝鮮半島をあとに、東へ、西へ、今まですれ違う機会もなくディアスポラの旅を生きてきた「在日」と「コリョサラム」がめぐり合い語り合う、旅の記憶、旅の歌、旅の文学、旅の行方……。語らいは、新たな旅の予感とともに。



さあ、われらの旅を語り合おうか。

～在日、コリョサラム、コリアン・ディアスポラ～

ウズベキスタンの高麗人の村ポリシェビークで、「天然の美」を弾く老人

語り手：

キム・ブルット Kim Innokent'evich Brutt

1950年ソ連ウズベク社会主義共和国アンディジャン州ボズ(Boz)村生まれ。1991年ソ連崩壊後、「高麗日報」タシュケント支局長。現在、ウズベキスタン共和国「高麗新聞」編集長。著作多数。カザクスタン共和国ジャーナリスト同盟賞受賞者。

李朋彦 (写真家)

写真集『在日一世』、著書『たぶん僕はいま、母国の土を踏んでいる』

ぱくきょんみ (詩人)

詩集『すうぶ』、『そのコ』、エッセイ集『いつも鳥が飛んでいる』他

進行役：

姜信子 (作家)

1961年横浜生まれ。作家。恵泉女学園大学客員教授。著書に『安住しない私たちの文化』(品文社)、『追放の高麗人』(石風社)、『ノレ・ノスタルギーヤ』、『イリオモテ』(岩波書店)等

「コリョサラム (高麗人)」とは、CIS (独立国家共同体) に暮らす朝鮮半島にルーツを持つ人々です。現在主にウズベキスタンとカザフスタンに暮らしている彼らは、「1937年にスターリンによってロシアの極東から中央アジアへと強制移住させられた過去がある。そして、かつて19世紀半ば以来彼らの祖先たちが早魃に襲われたり日本の植民地になったりした朝鮮半島からロシア極東へと向かったように、今また、ソ連崩壊後の混乱と混沌の中であって、よりよく生きることのできる場所を求めて動き始めています(姜信子「越境者たち 南アジア・ロストフへの旅から」『世界』2003年12月)。

同じコリアン・ディアスポラでありながら異なる歴史を生きてきた「コリョサラム」と「在日」が出会い、語らうことで何が見えてくるのでしょうか。民族紙『高麗新聞』編集長キム・ブルットさんと在日の作家、写真家、詩人をお招きし、写真や映像、歌や詩を交えながら、対話と交流の場を設けます。

3月6日 (日) 午後3時～5時 ※終了後に懇親会を予定しています。

参加費：一般1000円 学生500円

会場・お問い合わせ：

YMCA 在日本韓国YMCA

東京都千代田区猿楽町2-5-5

TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633

e-mail ayc@ymcajapan.org

URL <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

(水道橋駅徒歩5分 御茶ノ水駅徒歩8分 地下鉄神保町駅徒歩7分)

